

図書館情報学と博物館情報学：両者の目録に注目して

田窪直規（近畿大学司書課程・学芸員課程）

目次

1. 図書館情報学と博物館情報学
 - 1.1. 図書館学の成立と図書館情報学への展開
 - 1.2. 博物館情報学
2. 図書館資料と博物館資料
 - 2.1. 図書館資料の特徴
 - 2.2. 博物館資料の特徴
3. 図書館の目録と博物館の目録
 - 3.1. 用語整理：ここでいう目録
 - 3.2. 目録整備率と博物館情報学の問題点
 - 3.3. 業務の中における目録の位置付けの差
 - 3.4. 目録の史的展開
 - 3.5. 目録の情報項目
 - 3.6. 目録の将来
4. まとめ

注記、資料

1. 図書館情報学と博物館情報学
 - 1.1. 図書館学の成立と図書館情報学への展開
 - 1.1.1. 図書館学の出現・成立とその内容
 - 1.1.1.1. 図書館学の出現・成立
 - ・ 図書館学の出現：19世紀初頭
ドイツで図書館学に関する最初の著書の出現¹⁾
←博物館学の出現 20世紀初頭²⁾
 - ・ 図書館学の確立：1880年代に始まり、1920年代に完了³⁾
←博物館学の確立：1950年代以降⁴⁾

1.1.1.2. 図書館学の内容

- ・ 図書館を「支えるためのさまざまな技術と知識の総体」⁵⁾
- ・ 技術：図書館の具体的な諸業務に関するもの
←資料の収集、組織化、利用者サービスなどに関するもの
- ・ 知識：技術のほか、基礎論的、理念的、歴史的、社会・制度的な諸側面などをも対象
←博物館学の内容にもほぼパラフレーズ可能

1.1.2. ドキュメンテーションから情報学へ、そして図書館情報学へ

- ・ ドキュメンテーション（19世紀～20世紀にかけて出現）
←旧来の図書館という枠にとらわれない情報（資料）の流通活動
図書館的なモノ単位管理→情報（資料）単位管理
新技術の積極的利用：マイクロフィルム、コンピュータ
- ・ ドキュメンテーションの枠組みを超えた研究
例：科学コミュニケーションの研究、計量的な資料や情報の研究
- ・ ドキュメンテーションから情報学へ（1950年代～60年代）
1968年：米国ドキュメンテーション協会 (American Documentation Institute: ADI) → 米国情報学会 (American Society for Information Science: ASIS)
- ・ 図書館学から図書館情報学へ（1960年代後半以降）
- ・ 図書館学も情報学の母体のドキュメンテーションも似ている
←資料の流通・利用をはかるという意味では同じ

1.2. 博物館情報学

1.2.1. 博物館情報学における情報学とは

“information science”ではなく“informatics”

information science : 情報の流通・利用に関する分野

informatics : コンピュータ科学およびその応用領域⁶⁾

←ただし、この分野の第一人者は両者の差を意識していない
「博物館情報学(informatics)は、いかに情報学(information science)と技術が博物館環境に影響するののかについての研究である。」⁷⁾

1.2.2. 博物館情報学の出現とその内容

- ・ 初出不明も 1980 年代後半か？

1987 年には“Archives and Museum Informatics”の刊行⁸⁾

- ・ 博物館情報学の定着・確立期：1990 年代

米国のあまたの大学で博物館情報学に関するプロジェクトが展開された⁹⁾。

- ・ 図書館情報学との差

図書館情報学：図書館学と情報学の複合分野

博物館情報学：博物館学の一部

博物館学の各分野、もしくは博物館の各活動への、情報や情報(通信)技術の応用に関する分野

←ただし、別の見方も

「情報社会における博物館の役割に対する包括的なまなざし(comprehensive look)を提供する」¹⁰⁾もの

←押し広めて解釈すれば

博物館学を情報という観点から再構築するもの

- ・ 博物館情報学の関連分野¹¹⁾

デジタル図書館、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション、社会ネットワーク分析、認知科学、博物館研究(museum studies)、図書館情報学

2. 図書館資料と博物館資料

- ・ 資料（メディア）：何らかのメッセージを伝えるもの
メッセージ：記号列で構成←記号は単なる形（パターン）
∴記号を実体化させるものが必要→キャリア
つまり、資料＝メッセージ*キャリア（新聞＝新聞記事*新聞紙）

2.1. 図書館資料の特徴

- ・ メッセージの可動性
あるメッセージ（作品）が一冊の図書として出版されたり、
同じメッセージが上下2冊という形で出版されたり、
大部な図書の一部として、他のメッセージと同居した状態で出版されたりする
- ・ メッセージ中心の資料←利用者はキャリアにあまり興味なし
雑誌論文などの場合、平気でコピー
←メッセージさえ同じなら、キャリアが冊子体であろうと
シート（製本されていない紙の形）であろうと、どちらでもよい
- ・ ただし、キャリアも一定の役割

インタフェース：雑誌記事は、シートのほうが使いやすい？

管理：物的な存在物（キャリア）で管理
←実体のないメッセージに注目して管理しづらい
- ・ 可読性←メッセージのコードを知っている人なら誰でも読める
日本人は、日本語という言語コードを知っているので、日本語を誰でも読める
- ・ 言語コードが中心←強いコードで意味がはっきりする
- ・ メッセージの要約可能性：抄録→主題
←サブジェクト性の強い資料
- ・ 複製メディア：安価・非貴重

2.2. 博物館資料の特徴

- ・ メッセージの不可動性
← キャリヤーと一体化：キャリヤー即メッセージ
- ・ キャリヤー中心の資料
← キャリヤーに現れる表現（もしくは形状・特徴）を通じて、
資料のメッセージを“読む”
- ・ 難読性：通常、コードはその道の専門家にしか分らない
← ただし、コードは安定していない：変化、解釈の差
- ・ キャリヤーの様々な属性を通じて資料を理解（“読む”）
← オブジェクト性の強い資料
- ・ 基本的に唯一（希少）メディア：高価・貴重
- ・ 関連情報の重要性：伝来・来歴、出所

3. 図書館の目録と博物館の目録

3.1. 用語整理：ここでいう目録

- ・ 図書館の場合：所蔵資料を対象
← 非所蔵資料は書誌
- ・ 博物館の場合：所蔵資料外のものも対象
例、作家のカタログ・レゾネ ← 図書館では“書誌”
← 所蔵目録に絞る：図書館とベースあわせ、博物館情報学の基盤

3.2. 目録整備率と博物館情報学の問題点

- ・ 博物館の目録整備率：完全約 22%、不完全約 40%¹²⁾
← 基盤不整備で情報技術のみが踊る博物館情報学
- ・ 図書館の目録整備率：ほぼ 100%？

3.3. 業務の中における目録の位置付けの差

3.3.1. 図書館の目録

- ・ ハウス・キーピング業務：ルーチンの、継続的業務
選書、発注、受入、目録、分類、装備、貸出などの諸業務
- ・ 目録業務の特権性
←分類業務とともに別格扱い ∴目録規則の作成
- ・ 図書館の目録：閲覧目録中心

3.3.2. 博物館の目録

- ・ 博物館ドキュメンテーション¹³⁾
←ルーチン的で継続的な業務に必要な情報を記録する活動
エントリドキュメンテーション、登録、目録、イグジット・ド
キュメンテーションなどの諸業務
- ・ 目録業務の非特権性
←博物館ドキュメンテーションの一分野に過ぎない
博物館ドキュメンテーションの基盤性
∴ドキュメンテーション標準やデータ標準の作成
- ・ 博物館の目録：図書館でいう事務目録中心

3.4. 目録の史的展開

- ・ 標準化とコンピュータ化に注目して、史的展開を追う

3.4.1. 標準化関連の動き

3.4.1.1. 図書館の世界の動き

- ・ 1841：近代的な目録の基礎←『大英博物館刊本目録』

- ・ 書誌情報の国際的な標準化

1961 : アクセス・ポイントの標準化 : 「パリ原則」

1970年代 : 記述の標準化 : ISBDs

1997 : 実体関連モデルによる目録把握 : FRBR

← RDA へ

2009 : 国際目録作成原則声明 (Statement of International Cataloging Principles)

2011 : ISBD 統合版 (Consolidated Edition)

3.4.1.2. 博物館の世界の動き

3.4.1.2.1. 英国の動き

- ・ 1967 : 博物館協会情報検索グループ (IRGMA)

← 目録などの整備状況改善

- ・ 1977 : 博物館ドキュメンテーション協会 (MDA)

各種ドキュメンテーション書式の開発

博物館ドキュメンテーションシステムの開発

ドキュメンテーション標準 (SPECTRUM) の開発

2008 より Collections Trust

3.4.1.2.2. 国際博物館会議国際ドキュメンテーション委員会

(ICOM CIDOC) の動き

- ・ 1970年代末 : 国際的なデータ標準に関する議論

- ・ 1994 : 「博物館資料のための最小情報カテゴリー (Minimum

Information Categories for Museum Objects: MICMO)」

- ・ 1995:「博物館資料情報のための国際指針: CIDOC 情報カテゴリー (International Guidelines for Museum Object Information: The CIDOC Information Categories)」(以下 IGMOI)

←ISBD(G)は 1977:複製メディアと唯一メディアの差

- ・ 1998:「概念参照モデル(Conceptual Reference Model: CRM)」
(出版初版)
2006: ISO 標準

博物館資料情報の非均質性

オブジェクト指モデル

構造化マッピング・テーブル、オントロジ

3.4.1.3. 図書館と博物館の交流

- ・ 2003: FRBR と CRM の調和プロジェクト

←FRBR_{ER} から FRBR_{OO} へ

3.4.2. 目録作業のコンピュータ化の動き

- ・ 分担目録作業(協同目録作業)的な動きに注目

3.4.2.1. 図書館の世界の動き

- ・ 1967: 分担目録作業の出現: OCLC

目録作業の効率化、総合目録の構築

←複製メディア

3.4.2.2. 博物館の世界の動き

- ・ 1972:「カナダ文化遺産情報ネットワーク(Canadian Heritage Information Network: CHIN)」¹⁴⁾

←唯一メディア

- ・ 2004: 文化遺産オンライン(正式公開は 2008)

3.5. 目録の情報項目

3.5.1. 図書館目録の情報項目

3.5.1.1. 記述

- ・ ISBD の 8 エリア（統合版以前）←資料参照
- ・ 疑問点：メッセージ中心資料だがメッセージの記述項目がない
←ただし、アクセス・ポイントによる内容指示：主題
- ・ OPAC による変化
内容表示
状態表示←他のハウス・キーピング用情報システムとの連携

3.5.1.2. アクセス・ポイント

- ・ アクセス・ポイントのための項目設定
著者、書名、主題（分類、件名）を特に重視
- ・ 統制語の使用：典拠ファイル、分類表、件名標目表
- ・ OPAC による変化：記述部分の自然語検索も

3.5.2. 博物館目録の情報項目

3.5.2.1. 記述

- ・ MDA カードを例に←資料参照
- ・ キャリヤー中心の資料 ∴ これの特徴を記す「記述情報」
- ・ 学芸員のための目録 ∴ 管理情報
- ・ 資料関連情報の重要性 ∴ 関連情報
- ・ コードが弱い ∴ 解読者・日付情報（目録担当者とその日付）

3.5.2.2. アクセス・ポイント

- ・ ブジェクト性強し：キャリアの様々な属性からの検索が必要
←図書館資料：メッセージ性強し ∴主題重視
- ・ 様々な固有名からの検索：作成者、所有者、旧蔵者、使用者・・・
←図書館資料：ほぼ著者
- ・ 場所からの検索：制作（製作）地、出土地、採集地・・・
←図書館資料：通常ニーズがない
- ・ 結局：多種多様なアクセス・ポイント
←アクセス・ポイントと記述の分離は不能
- ・ アクセス・ポイントとして重要な項目への統制語使用の推奨

3.6. 目録の将来

- ・ 従来 of Web：文書的なもの
インターネット上の識別子 (URI) の付与、HTML というこれらのためのマークアップ言語でマークアップ、互いにリンク付け
- ・ 最近 of Web：データの的なものの進出
データに URI を付与、RDF というこのためのマークアップ言語でマークアップ、互いにリンク付けし、公開
←リンクド・オープン・データ (Linked Open Data: LOD)
図書館も博物館も資料データの LOD 化の動き
ウェブ上での MLA 資料データのリンキング (関連付け) ¹⁵⁾

4. まとめ

- ・ 図書館情報学と博物館情報学

図書館情報学：図書館学と情報学の複合分野

博物館情報学：博物館学の一分野・一側面

博物館学を情報という観点からとらえる分野

- ・ 博物館情報学とドキュメンテーション

博物館の情報学は informatics

←しかし、ドキュメンテーションという分野あり

目録などの基礎分野

←informatics 性(コンピュータ性)が薄れ

情報の記録を重視する information science 性(ドキュメンテーション性)が強くなる

- ・ 図書館資料と博物館資料

図書館資料：メッセージ中心、サブジェクト的

博物館資料：キャリアー中心、オブジェクト的

- ・ 図書館目録と博物館目録

図書館目録：基本的に利用者のも

ハウス・キーピング業務の中で別格

記述：資料の属性情報

AP：主題・著者・タイトル重視、別途設置

博物館目録：基本的に学芸員のもの

ドキュメンテーション業務の中の一つ

記述：資料の属性情報、関連情報、管理情報・・・

AP：多数・多種、記述の中

- ・ LOD：図書館、博物館、文書館の資料情報の関連(リンク)の世界

* なお、本発表は以下の科研費による研究成果の一部である
科学研究費基盤研究(C) 課題番号 25330391 研究代表者：和中幹雄

注記

- 1) 根本彰. “図書館情報学の成立と展開”. 図書館情報学ハンドブック. 図書館情報学ハンドブック編集委員会編. 第2版, 丸善, 1999, p.12.
- 2) 矢島國雄. “博物館学史”. 博物館学事典. 倉田公裕監修, 石渡美江ほか編. 東京堂出版, 1996, p.228.
- 3) 米国において、1880年代にはじめて大学に「図書館学校」が開設され、1920年代にはじめて博士課程まである図書館学の大学院が開設されている。これらの点に基づいて、ここでは学の確立が1880年代に始まり、1920年代に完了するとした。
- 4) 矢島注2文献. p.229-230.
- 5) 根本彰. “図書館情報学の領域と特性”. 図書館情報学ハンドブック. 図書館情報学ハンドブック編集委員会編. 第2版, 丸善, 1999, p.1.
- 6) 根本注5文献. p.5.
- 7) Marty, Paul F. et.al.. Museum Informatics. Annual Review of Information Science and Technology. 2002, 37, p.259.
- 8) Archives and Museum Informatics. 1987-1999, 13Vols, 49Issues, Springer.
- 9) “Museum informatics”. Wikipedia. 2013.03, http://en.wikipedia.org/wiki/Museum_informatics, (accessed 2014-11-24).
- 10) Marty, Paul F.; Jones, Katherine Burton ed.. Museum Informatics: People, Information, and Technology in Museums. Routledge, 2008, p.xi.
ただし正確に述べると、引用部分のように博物館情報学をとらえているというよりは、文脈的にはこのような広い視野の文献はほとんどないということを訴えているというべきである。
- 11) Marty, Paul F.. “An Introduction to Museum Informatics”. Museum Informatics: People, Information, and Technology in Museums. Marty, Paul F.; Jones, Katherine Burton ed.. Routledge, 2008, p.5.
- 12) 日本博物館協会編. 日本の博物館総合調査研究報告書: 地域と共に歩む博物館育成事業. 日本博物館協会, 2009, p.89.
- 13) 博物館ドキュメンテーションの詳細については、次を参照されたい。
ホルム, S.A.著, 田窪直規監訳. 博物館ドキュメンテーション入門. 勁草書房, 1997, 156p.
- 14) ただし CHIN は当初とは性格を変えてきており、近年ではデジタル技術を利用して博物館やこれのユーザーをつなげるさまざまな取り組みを展開している。この URL は次のとおり。 <http://www.rcip-chin.gc.ca/index-eng.jsp> (参照 2014-11-24)
- 15) 例えば以下の文献。
Dunsire, Gordon; Willer, Mirna. Standard Library Metadata Models and Structures for the Semantic Web. Library Hi Tech News. 2011, 28(3), p.1-12.

ISBD

第 1 エリア: タイトルと責任表示エリア(Title and Statement of Responsibility Area)

タイトルやサブタイトル、メッセージ内容に責任のある人・団体（典型例は著者や編者）などの情報を記述するエリア

第 2 エリア: 版エリア(Edition Area)

メッセージの変更である「第 2 版」「第 3 版」などの情報のほか、キャリアの変更である「縮刷版」「豪華版」などの情報を記述するエリア。

第 3 エリア: 資料（または刊行方式）の特性エリア(Material(or Type of Publication) Specific Area)

当該資料種別に特に必要とされる情報を記述するエリア。例えば地図資料の場合の縮尺率。なお図書の場合、このエリアは使用されない。

第 4 エリア: 出版、頒布等エリア(Publication, Distribution, etc., Area)

出版地、出版者、出版年などの情報を記述するエリア。

第 5 エリア: 形態的記述エリア(Physical Description Area)

資料の形態に関する情報を記述するエリア。図書の場合、通常ページ数と縦寸が記述される。

第 6 エリア: シリーズ・エリア(Series Area)

対象資料が何らかのシリーズに属している場合、そのシリーズに関する情報を記述するエリア。例えば当書なら、「博物館情報学シリーズ 第 1 巻」などと記述される。

第 7 エリア: 注記エリア(Note Area)

1～6 のエリアに記述された情報に関する注記や、これらのエリアに収まらない情報を記述するエリア。

第 8 エリア: 標準番号と入手条件エリア(Standard Number (or Alternative) and Terms of Availability Area)

例えば図書の場合、標準番号については通常、国際標準図書番号(International Standard Book Number: ISBN)が記述され、入手条件については定価などが記述される。

MDA カード

1. 識別情報

資料を識別する簡単な名称やタイトルを記述するための情報項目

2. 作成情報

いつ、だれが、どこで、どのようにして資料を作成したのかを記述するための情報項目

3. 機関：識別番号

資料の所蔵機関と資料の識別番号を記述するための情報項目

4. フィールド・コレクション情報

いつ、だれが、どこで、どのようにしてその資料を発見したのかを記述するための情報項目

5. 関連情報

所有や利用を通じて対象資料に関連のある人々、場所など、資料の履歴を記述するための情報項目

6. 記述情報

資料の状態、材質など、キャリアーの情報を記述するための情報項目

7. 取得情報

誰からどのようにして資料を取得したのかということを記述するための情報項目

8. 保管/展示場所

資料の収蔵庫における保管場所や展示されている場合の展示場所を記述するための情報項目

9. 記録者：日付

目録情報を記録した人とその日付を記述するための情報項目

10. 複製/修復情報

複製や修復に関する情報項目

11. 記録文書(documentation)

資料に関する出版物や文書ファイルなど、関連資料（文献）について記述するための情報項目

12. 注記

資料の任意の側面について記述するための情報項目